

不妊治療の女性ホルモン投与がリウマチの原因。
辛いリバウンドを経て快方へ向かわれている方の手記。

「リウマチのリバウンドを乗り越えて

(現在も治療中)」匿名希望 52歳

2016年9月11日

私は、三重県に住む52歳の主婦です。平成22年に松本先生のもとでリウマチの治療を始め、現在も続けているところです。治療の途中、リバウンドでほぼ寝たきりになる苦しい時期もありましたが、現在、平成28年は、その頃に比べてリウマチ因子の値が下がり、まだ、手や足に痛みが残るものの、日常生活を送ることができるようになりました。ここまでたどりつくことができたのも松本先生のおかげです。ありがとうございます。現在も治療中ですが、発症から現在までの手記を書くことにします。

1 松本医院へ行くまで

私は、平成2年、26歳で結婚し、専業主婦として主人と娘2人の4人で生活していました。幼少から呼吸器系統が弱いことを除いては、特に健康に不安なところはありませんでした。ところが、平成22年、1月頃、左手の人差し指が腫れた感じになり、手のひら側に少し曲がった状態で、伸ばすことが辛くなってきました。その状態は徐々にひどくなり、その年の3月に家の近くの整形外科を受診することになりました。

その医師は、私の指を見て、「バネ指」と診断し、ボルタレンというステロイド系の塗り薬を処方し、1日3回塗るようにと指示されました。しばらくの間、医師の言われたとおり通院し、毎日、医院内で電気を手に通すリハビリも行いました。ところが、初診のときと全く症状が変わらなかったため、ステロイドの注射を指に打ったところ、数日後に腫れは治まったのですが、他の箇所にも腫れが出てきました。大体1ヵ月位通院しましたが、一向に症状が良くならないので、血液検査をしたところ、1週間後、医師から「CRPが低いから、軽いリウマチである。」「リウマチは一生治らない。うまくつきあっていくしかない。」と診断され、アザルフィジンEN500mgを処方され、朝夕服用するようにと指示されました。

私は、リウマチと聞いて、父のことを思い出しました。父がリウマチだった

のです。父は、病院を転々とし、薬も何度も変わりましたが、「治らない。痛い。」と言っており、当時学生だった私は、リウマチの症状は辛いものだと言われていました。私は、これから一生、薬を飲み続け、また、痛みと付き合っていかなければならないのかと思うと、あきらめきれなかったので、アザルフィジンは飲まずに、何か治療法はないものかと本やインターネットで調べることにしました。リウマチを克服した人が書いた本では、呼吸法やハーブサプリを飲むこと等による体の治癒力で治したとされており、ハーブサプリのパンフレットを取り寄せてみましたが、そのハーブサプリを使った人のブログを見ると1日に4Lも水を飲まなければならないこと等、その本を書いた人が行った方法は私にはできないと感じました。

その他にもリウマチを治すための本が出版されていますが、どれも私にとっては、納得できるものではなく、また、インターネットでリウマチを検索したところ、リウマチに関するブログや、リウマチ科のある病院のホームページ等が沢山ありましたが、これらも自分の考えと合わないものばかりでした。ところが、松本医院のホームページを見たとき、リウマチは人体の正しい免疫反応であり、アレルギー治療を経て必ず治ることやそのために漢方を用いているということに、何となくここなら良さそうかなと思ひ、先生の理論や患者さんの手記を何日も何日も読み続けました。何度も出てくる「免疫」「クラススイッチ」「ヘルペス」「リバウンド」「IgG」「化学物質」等という専門用語は、最初は理解できませんでした。しかし何度も読むにしたがって、おぼろげながら意味がつかめるようになりました。そして、リウマチを治すためには、松本医院しかないという思いを強くし、主人に相談して受診することになったのです。

その年の3月12日、主人の運転する車で2時間かけて、松本医院へ着きました。受付で渡された手記を読み、2時間位待って診察室に呼ばれたので、松本先生に自分の症状を話しました。先生は、「バリバリのリウマチや！大丈夫！治る！治らん病気はない！あんたの免疫で治すんや！」と言って笑顔で握手してくれました。先生に「リウマチは治る」と言われ、元気をもらってうれしかったことや、漢方の服用や鍼の治療なら、自分の体調にあっていると思ひ、松本医院で治療を受けることに決めました。

この日の血液検査の結果

CRP : 0.17 RF : 81 血沈 : 55 MMP3 : 66.3

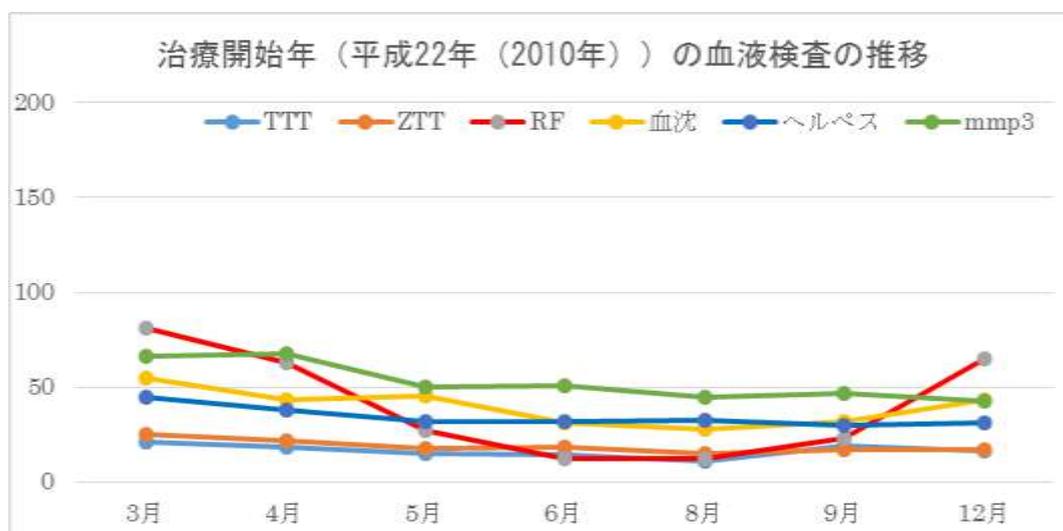
2 治療の開始

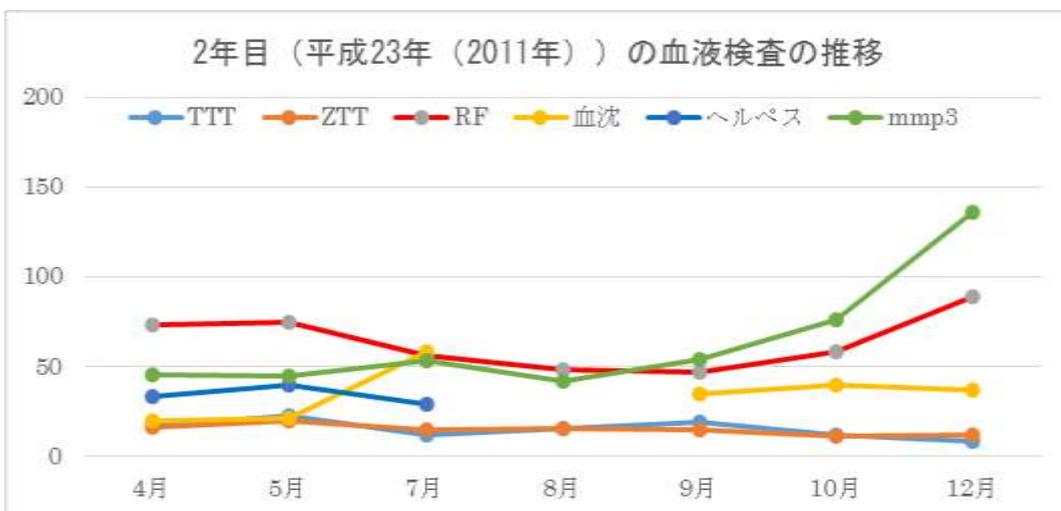
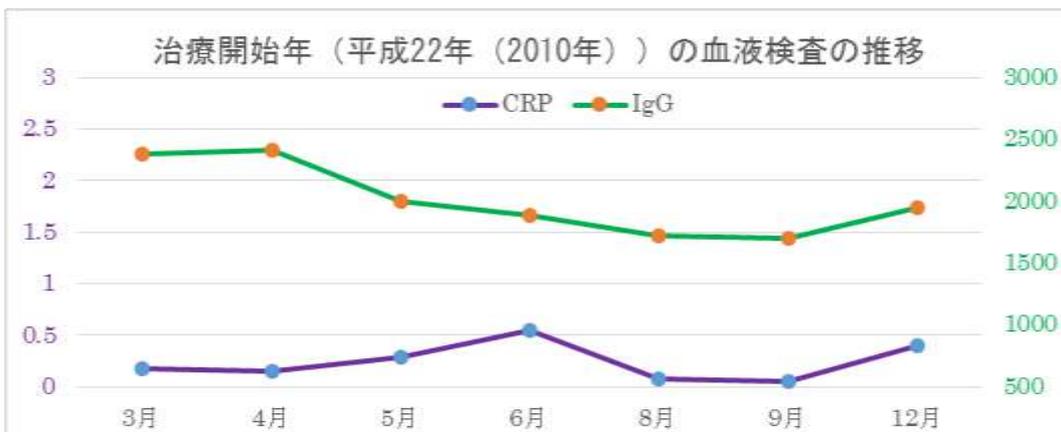
帰ってから早速、漢方の煎じ薬や、漢方風呂、手の指へのお灸を始めました。お灸は、悲鳴を上げる位熱くてくじけそうになりましたが、煎じ薬独特の味にも慣れるようになりました。また、漢方風呂は、とても体が温まり、市販の入浴剤とは比較にならないものでした。また、お灸で火傷のようになったところにもよく効き、火傷の痛みを和らげてくれました。また、鍼は、近くの鍼灸院へ週1回、通いました。

煎じ薬の服用やお灸が日課となり、2ヶ月に1度、松本医院や家の近くの内科で血液検査をしてもらったところ、指の痛みはまだ残っているものの、数値が徐々に正常値に向けて下がっているものもあり、嬉しい気持ちもありました。しかしながら松本先生の話や手記等でリバウンドのことは見聞きしているので、いつ、それが来るのかと内心は、少々不安なところもありました。また、血液検査の数値が上下することもあり、松本先生からは、そんなことで心配しないようにとの指導もありました。

3 リウマチの原因

私は、小さい頃から体が弱く、風邪をひくと普通の人とは違い、1週間から10日間は必ず寝込んでいました。風邪薬、咳止め、解熱剤を服用し、成人してからは、頭痛がひどく、鎮痛剤もしょっちゅう飲みました。そして、結婚してからは不妊治療もしました。松本先生は、「過去に大きなストレスがあったのか？」と聞かれ、特に大きなストレスは思い浮かばなかったので、これまで沢山の薬を飲んできたことを話しました。そして、不妊治療の話をしたとき、先生は、「それや！原因はそれや！」「女性ホルモンを投与することにより、免疫を抑えたんや！」と言いました。医師の言葉を信じ、軽々しく飲んでしまった薬。今は恐ろしくてたまりません。リウマチになる原因を自分で作っていたのです。





4 リバウンド期 (2012~2013年)

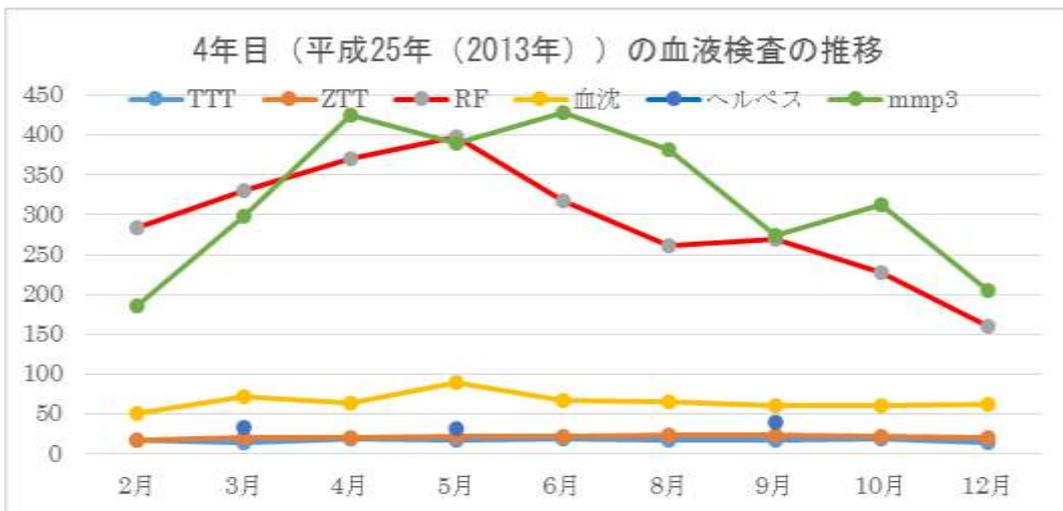
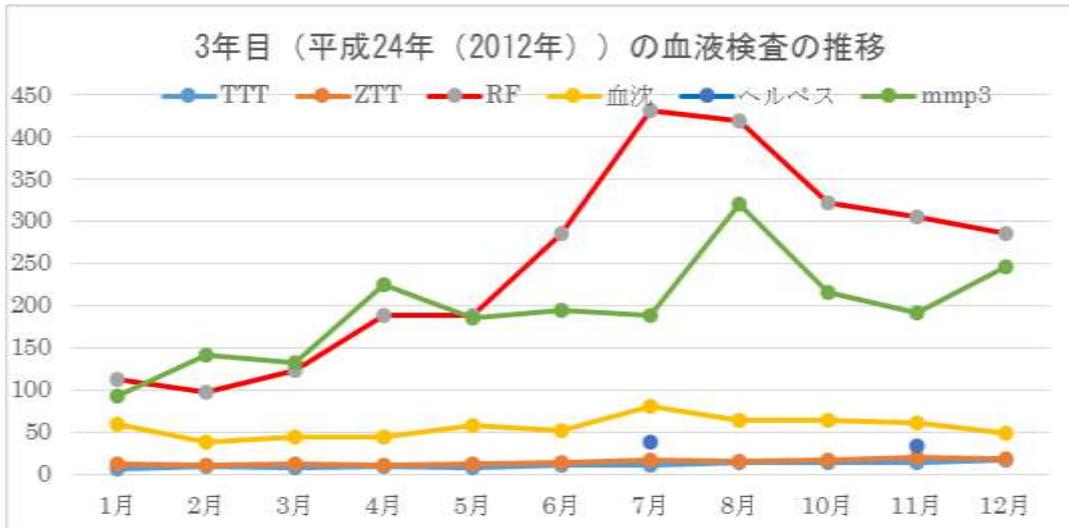
漢方を飲んで、鍼治療をし、漢方風呂も入り、お灸を続けていくうちに、免疫が回復したようで、3年目(平成24年)にはリバウンドがやってきました。松本理論や患者さんの手記を読んで覚悟はしていたものの、想像を絶するものでした。

これまで、手の指が痛いだけでしたが、首から上と腰以外の関節のほとんどに痛みが伴うようになったのです。最初は左膝を曲げると激痛が走り、階段が登れなくなってしまいました。平らな所で膝を曲げないようにゆっくりロボットのように歩かなくてはならず、小さな段差を越えるのも一苦勞です。次に膝の痛みが肩の痛みも加わりました。肩が痛くて手が上がらず、上から被る服は着られなくなり、朝の洗顔もできません。お湯でタオルを濡らして顔を拭くしかありませんでした。

お風呂も大変でした。湯船には介護用の椅子を沈めてそれに腰掛けていました。洗髪するときは、頭頂部や側頭部は痛みを耐えてできたものの、後頭部から頸部にかけては肩を大きく回さなければならず、激痛のため手を届かせることができませんでした。やむなく、ブラシにシャンプーを付けてやっと洗えるといった具合です。風呂からあがり、何とか体は拭けたものの、髪を乾かすときのドライヤーが重く、1分間も持っていられなかったことと、手を後ろに回すことができず、髪を乾かすことができなかったため、主人に乾かしてもらいました。

日常生活の些細な動作、つまり、受話器を耳に当てたり、物を拾ったりする動作も手首、肘、肩の関節が痛く、動かすことができなくなっていました。症状が徐々にひどくなり、関節痛に倦怠感も加わったことから、1日の大半をベッドで横になって過ごすようになっていましたが、体を横にしても寝返りをうとうとすると、体全体が痛く、また薄い掛け布団すら重く感じ、体を横にしても決して楽ではありませんでした。微熱も続き、毎日がもうろうとして、時間が経つのを待つばかりでした。体重は、10kg以上減りました。

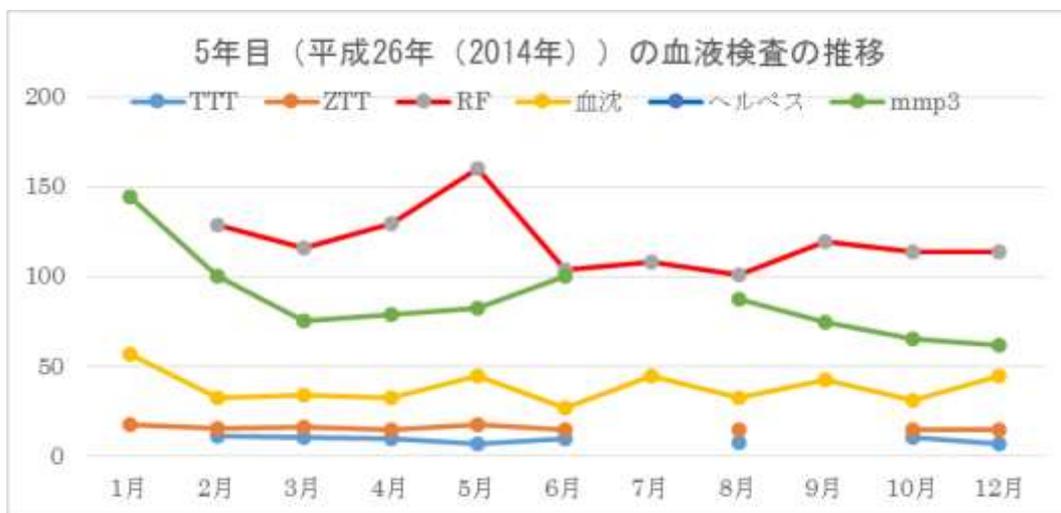
この頃、髪の手も抜け始め、松本先生に電話で相談すると、「髪の手が抜けるのは、ストレスや。本当にリウマチが治るんやろかって不安なんやろ。俺を信用していないってことや。」と言われました。誰かの手を借りないと、生活できない体になってしまい、治りたい、絶対治ると思う気持ちの中で不安もあったのかもしれない。とにかく頑張らなくては！この痛みは、免疫の正しい働き！免疫が戦っているんだ！絶対治る！と何度も自分に言い聞かせました。私にとって、2012年、2013年のこの2年間は一番苦しくて大変な時期でした。





5 アトピー期（2014年3月～）

この頃から体が少しずつ楽になり、あんなに痛かった膝の痛みは治まり、肩も上がるようになってきました。一方、アトピーが腕全体、ふくらはぎ、背中に沢山出るようになり、痛みに比べると楽ではありますが、痒くてたまりません。松本医院で出していただいた漢方風呂に入った後だけは、痒みが治まり楽になりました。痒みがひどくても、松本先生の言葉を思い出し、良くなるためのものであることを自分に言い聞かせ、気持ちを強く持つようにしていました。

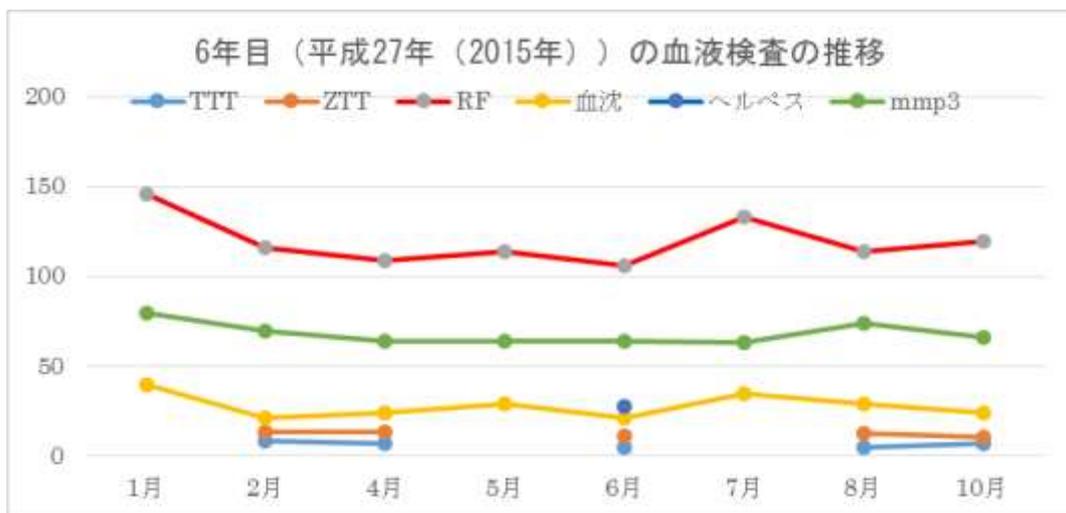


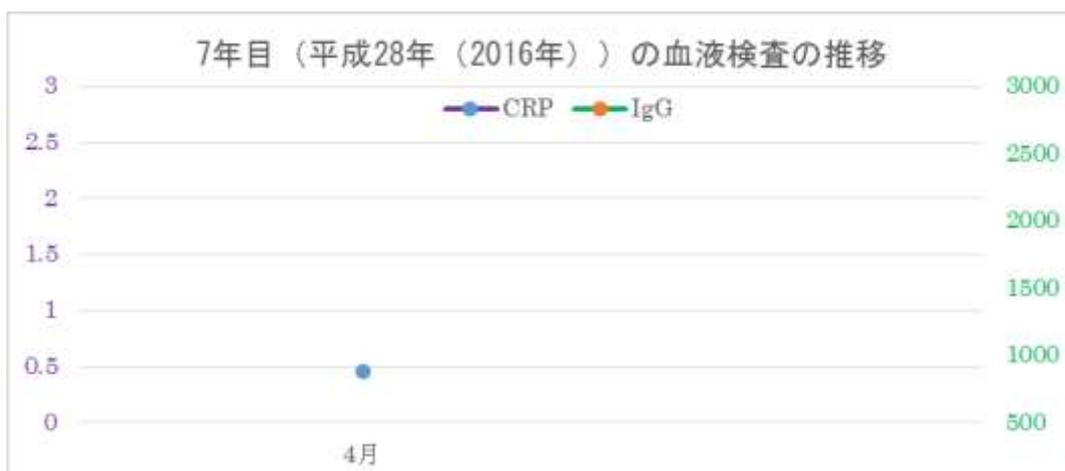


6 ヘルペス期（2016年4月～現在）

松本医院に通い始めて7年、まだ治療中です。足の裏は、まだ痛みがあり、以前に比べると自然に歩けるようになり、長時間でなければ買い物に出かけることもできるようになりました。まだ足首の腫れが残っていますが、以前のように、はっきり判るものではなくなりました。

松本先生が「症状が出ることは良いこと。免疫が戦っている。免疫が負けることはない。」「最後はヘルペスや！」と以前からよく言われており、痛みがあってもこの言葉に励まされ、今では、痛みがあってもそれを受け入れられるようになりました。





7 まだ続く治療（薬価や検査費の軽減を！）

辛いリバウンドは越えたものの、ヘルペスの痛みは続いており、ヘルペスに効く薬（アシクロビル）を飲むこととなったのですが、痛みの程度に応じてアシクロビルを飲む量を松本先生に調節してもらっています。最初は少量で治ま

りましたが、次第にヘルペスの症状が強くなり、少量の薬では済まなくなり、飲む量が増えていき、1日20錠飲んでやっと痛みが楽になるという具合です。

アシクロビルは、保険適用外なので、20錠というと、2,000円です。1日2,000円、1か月だと36,000円。アシクロビルだけで36,000円です。他にも煎じ薬の自費分、漢方風呂代、週1回の鍼灸治療代、保険のきかないものが数ある中で、アシクロビルは、高額すぎて飲みたい量が飲めません。今、私は、アシクロビルを1日12錠に減らしました。20錠飲んでいた時とは違い、痛みがあります。多くの方々がアシクロビルの負担が大きいことから、継続が困難であると話されていますが、私もその一人です。飲みたくても高額なために十分な量を飲めないのです。

また、本来なら、毎回の血液検査でヘルペスやMMP3等の検査もしてもらいたいのですが、これも保険がきかず、毎月受けられない検査であるため、検査をあきらめているのです。もし、これらの項目も保険が適用され、毎回、検査できるのであれば、治療の経過が明らかになり、松本先生の漢方薬や鍼灸治療による免疫を上げることで病気が治っていくことの証明にもなるのですが、それが十分にできず、残念です。

松本医院には、全国から沢山の患者さんが来院しており、特に遠方の人には、電話での診察にも応じて下さっています。松本先生には、私を含めこのような患者に対して便宜を図って頂き、とても有り難いと感じているところです。是非、松本医院で治療を受けている皆さんの薬代や検査費用が保険の対象になるよう、制度を改めてほしいと願っております。